

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500046		
法人名	株式会社 やさか		
事業所名	グループホーム あんき		
所在地	岐阜県中津川市坂下931-1		
自己評価作成日	平成26年1月10日	評価結果市町村受理日	平成26年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191500046-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191500046-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成26年1月29日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしい暮らしをその人が主役で作れるケア」を目指し、職員の役割を極力決めず、その人の動きに柔軟に対応出来るように取り組んでいます。  
5年目を迎え、地域の方の協力も増えて来ました。行事はもちろん、避難訓練も近所の方も含め、多くの方が駆けつけて下さいます。  
ご利用者も含め、地域に根差した事業所に近づきつつあります。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、開設5年目を迎え、地域の一員として定着している。回覧板で、地域行事に参加したり、事業所のイベント情報も発信して、積極的に交流をしている。とりわけ、災害訓練では、毎回20名の住民参加を得ている。所内の一室は、マッサージ器を備えた、デンマーク流の「センスルーム」と名づけ、緊張をほぐす部屋として、利用者・職員に開放している。利用者の表情も穏やかで、今までと変わらない自由な生活を送っている。管理者・職員は、利用者の、その人らしい暮らしを支えるために、自らも成長することを目指し、質の高いサービスを実践している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に関しては日頃より、職員一同心掛けしており、利用者の立場に立って、実践に繋げている。	理念を、全職員で意識できるように、毎日のミーティングで確認をしている。利用者が、その人らしく主体的に暮らすことができるように、理念に沿って、あたりまえな生活が続けられるように実践をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所から5年経過し、地域への皆さんへの理解も深まって来ており、行事など行き来の出来る関係が出来つつある。	地域の一員として、地域に受け入れられ、定着している。地域行事や事業所のイベントで、住民との交流が多い。防災訓練への協力や干支の民芸品が届けられたり、野菜などの贈り物も日常にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同じ地区内の施設等と連携を図り、事例発表などを通して、地域の方々も参加して頂ける様な取り組みがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事などにも参加して頂き、普段どのように接しているのかを見て頂き、会議の際に出た意見を参考に改善できる所は行っている。	会議は、定期に開催し、意見・要望等を話し合っている。行事を兼ねて、参加しやすい会議も行っている。防災面では、様々な場面を想定した課題を検討し、対策や運営に反映させている。	会議への出欠は、書面(葉書等)で問い合わせ、欠席の理由が明確な形で残ることが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム部会を通して、担当者との連絡を行っている。	市主催の会議や研修会に参加をしている。事故報告や困難事例は、その都度相談している。市の介護相談員も、2ヶ月ごとに訪れ、進行中の新規事業では、細かな助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が意識をして、取り組んでいる。	身体拘束ゼロで、取り組んでいる。夜間、ベッドから転落に不安のある人は、動きをセンサーで感知している。日中は施錠せず、見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会は少ないが、日頃の申し送り等により徹底している。また、アザ等を見つけた際には、必ず報告し、職員同士で共有し、ご家族にも報告している。		

岐阜県 グループホームあんき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全体では話し合いは出来ていないが、申し送り等で伝える様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を十分にとり、納得できるまで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族が来られた際には必ず話をし、内容はケース記録に記入し、共有するように心掛けている。 運営にも活かせるようにしているが、外部者へ表せる事は出来ていない。	家族の面会時や電話等で、意見・要望を聴いている。通院受診で送迎の要望や入浴回数を増やせないかなど、多様な意見がある。それらは、できるものから運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1度の職員会で、話し合うようにしている。	管理者は、月例の職員会議で、意見・提案を話し合っている。利用者に化粧をして、笑顔を引き出す提案や言葉かけの工夫などの意見があり、サービスの改善や運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修・外部研修への参加機会を作っている。 働きながらのトレーニングをしながら、自ら考える場面を作り、助言を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区内の施設との研修会、部会での研修会などに参加してもらい、交流の場面を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所された方へは、まず信頼関係の構築に心掛けている。時間を掛け、ゆっくりと話が出来る環境を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間を掛けて聞くようにしている。また、来所時にも話を伺うように注意している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入段階では、まず話を十分に伺うと事から行っている。他のサービスも含め、ご家族の希望に添える様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は行って頂き、家である様な支援を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と会える時間を大切にしています。出来る限り、無理のない範囲で面会して頂き、また受診も可能な限り御家族に行って頂くようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人の自宅、美容院、友人の面会など出来る限り関係が途切れないように支援している。	近所の知人や友人が訪れ、馴染みの関係を継続している。訪れる美容師や五平餅づくり、菓子づくりのボランティアとも馴染みである。家族と協力し、墓参りや見慣れた自宅の近くをドライブしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話の橋渡しをしたりなど、関われるようにしているが、基本的にはご利用者さん同士で関われるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	申し入れがあった際には行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の希望をかなえられるように支援している。困難な場合にも、出来る限り時間置いてからでもお声なえる様にしている。	日々の関わりの中で、思いを把握している。困難な人は、表情から思いを汲み取っている。本人のやりたいことやできることを支え、その人らしい自由な生活を支えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族から話を伺い、昔の暮らし、生活習慣などの把握に心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り等で把握と共有に心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を含めたモニタリングから、職員との話し合いを反映し、介護計画に反映している。	全職員で、本人の状態を評価している。本人・家族、関係者の意見を踏まえ、介護計画に反映させている。計画の実践経過を、常に観察して、柔軟に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を細かく記録する事を心掛け、職員間で共有できるように行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り、ご本人の思いに添える様支援している。		

岐阜県 グループホームあんき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等で地域方の交流を深め、ご本人が安心して暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医にかかれる様に出来る限り支援してる。(可能な限り御家族に受診をお願いしている。)	個々に、かかりつけ医を持っている。通院受診は、家族の要望や疾患の程度により、職員が対応をしている。受診情報は、関係者で共有し、適切な医療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との連携も取っており、何かあれば相談し、助言を受けられるよう連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には御本人の状態を情報提供し、退院時には、情報を伺えるように関係を大切にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階では話し合いが出来ていない。今は徐々にではあるが、ご家族と話せるように準備を始めている。 御家族から聞かれた際には、事業所で出来る事、出来ない事を話す様に心掛けている。	事業所で対応できる重度化の方針づくりは、準備の段階である。状態に応じた、段階的な話し合いと、医療依存度や生活上の限界、他の受け入れ機関への不安のない支援等を検討している。	重度化・終末期の方針を明確に定め、家族や関係者で共有することに期待をしたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についての研修を行うようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方を含めた避難訓練を定期的に行っている。	地域住民参加の災害訓練を、年に2回実施している。緊急時は、門柱の赤色ランプとサイレンが同時に作動し、近隣からの応援体制を築いている。通報は、携帯電話で一斉に伝達し、備蓄も整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	十分に配慮し、言葉掛けや支援を行っている。	誇りを損ねない、言葉かけや態度とは何かを、常に自覚し、徹底をしている。排泄や入浴は、同性介助とし、羞恥心に配慮をしている。	利用者が安心できるように、人間尊重を踏まえた接遇等、マニュアルの整備に期待をしたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で、聞き出せる様な言葉掛けに心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御本人のペースに合わせた生活を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧の支援、その人の昔からの好みを大切にしたおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	なるべく毎月好きな物が出来る様にしている。 一緒に準備・食事・片付を出来る様支援している。	食卓の準備から盛り付け、片付け、食器洗いまで手伝っている。料理の品数が多く、小鉢に彩りを添え、食事の楽しさを皆で味わっている。郷土料理の芋餅づくりを、職員と一緒にいきいきと取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量など注意している。 ご本人の状態に合わせた食事形態、習慣に合わせてられるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は行っていない。寝る前に口腔ケアは行っている。		

岐阜県 グループホームあんき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	周期表で排泄パターンの把握に努め、失敗が少なくなるようにトイレへの誘導・声掛けを行っている。	排泄の自立に向け、こまめにトイレへ誘導している。夜間も声かけと、個々に合ったパッドを選択し、おむつの節減につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のヨーグルトの提供を行っている(カスピ海ヨーグルト)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り、その人が気持ち良く入って頂けるように声掛けや支援を行っている。	入浴設定日以外でも、希望にそった入浴を支援をしている。風呂の大好きな人もいるが、苦手な人もいるので、本人の気分に配慮した声かけを工夫し、気持ちよく入ってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の状態を見ながら、休んで頂く時間を作ったりしている。 寝る際の居室の室温等にも注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々の申し送りによって、その人の状態の把握に努めている。 薬についての知識については、処方箋を見てもらうようにしてる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合った役割、楽しみ等支援できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・ドライブ・外食・喫茶など、外出支援を多く行えるようにしている。気分転換に外出を希望される方が多い為。	南に面したテラスと芝生の庭で、日々外気にふれている。近くのスーパーマーケットや道の駅へ散歩をかねて出かけ、誕生日には、個別に思い出のある場所へ外出をしている。季節の花見も行っている。	



岐阜県 グループホームあんき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、持って頂く事、必要時には使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は何時でも出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるよう工夫しているが、リビングの席は定位置が決まっており、その移動は難しくなっている。	居間の高い天窓から柔らかな陽が注いでいる。居間から続く、広いテラスと景観は開放感がある。共用の場には、干支の木馬や季節の花、手づくり作品等を飾り、家庭的なつるぎる場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方と座れるようには配慮している。 また、一人になれるような場所にも工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り使い慣れた物を持って来て頂くように話をさせて頂いています。	居室には、鏡付の洗面台を備えている。馴染みの椅子やテーブルの持ち込みもある。家族の写真や好きな動物のポスター、鉢植え、手づくり作品等を飾り、安心して過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り、ご自身で出来る様に工夫をする様にしている。		